

第4回

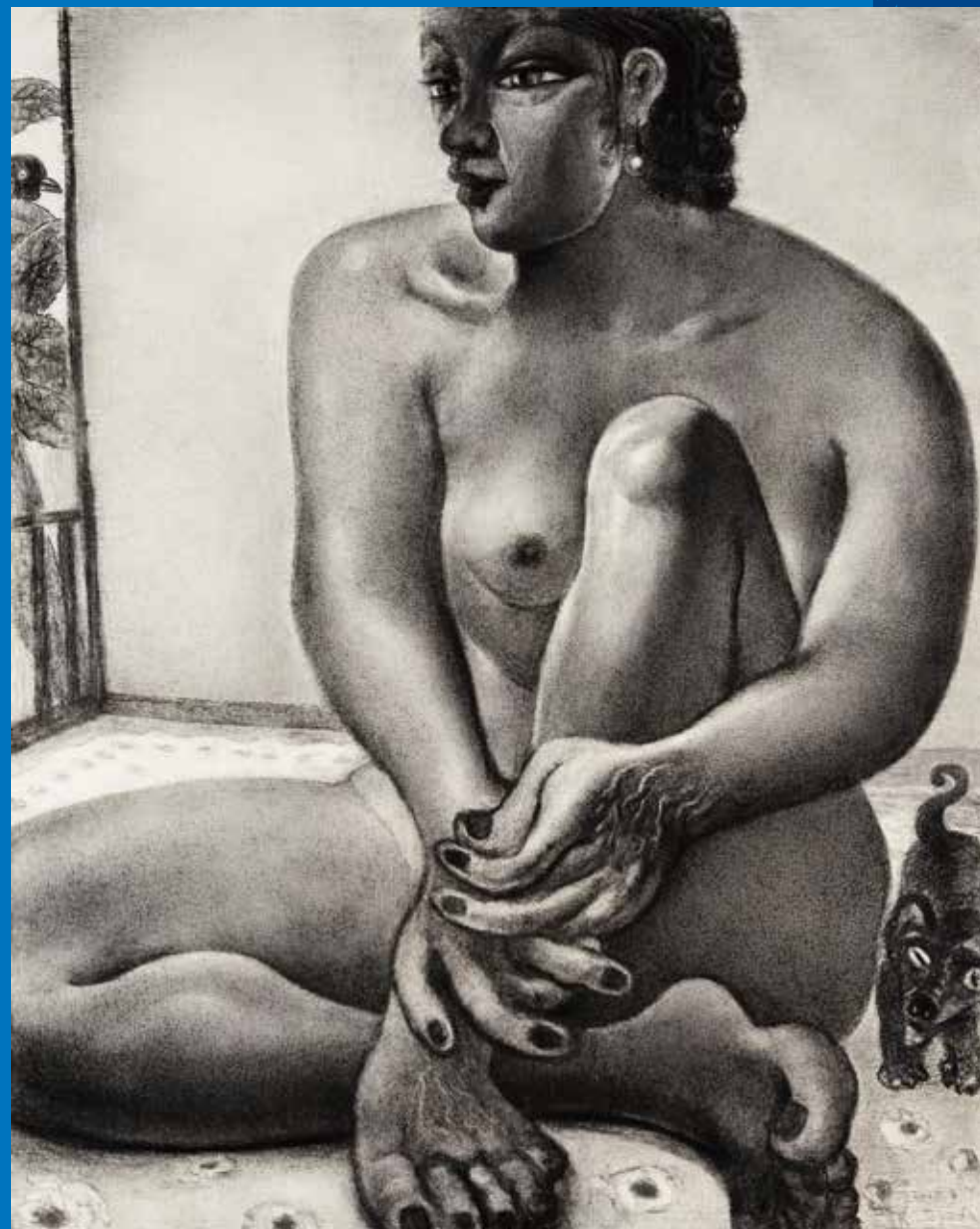
宮本三郎記念デッサン大賞展

明日の表現を拓く

応募作品総数 882点(過去最多)

問い合わせ 宮本三郎美術館 ☎ 20・3600

宮本三郎記念デッサン大賞展は、「明日の表現を拓く」をキャッチフレーズにデッサンの既成概念を打ち破る新しい表現を求めた小松発の全国コンクールです。7月19日、20日に荒井良二氏(絵本作家・イラストレーター)、鴻池朋子氏(美術家)、小澤基弘氏(埼玉大学教授・画家)、橋本善八氏(世田谷美術館学芸部長)、皆川明氏(デザイナー)ら5人の審査員によって厳正な審査が行われ、入賞13作品、入選38作品が選ばれました。



大賞 室内の裸婦 豊田 勝美(大阪府)

大賞受賞作品 審査員コメント

宮本三郎記念デッサン大賞展審査員
(世田谷美術館学芸部長)
橋本 善八



均衡と不均衡が混淆した、独特な存在感を醸成する作品です。丹念な手の動きの累積が、紙面に安定と緊張をもたらし、デフォルメされた肉体は力強いプロポーションを示し、それは有機的で、豊かな弾力感を生み出しています。さらに画面左右に配された小動物などが、作者の個人的で独特な世界観を示しているように思えます。一枚の紙に向き合い、描き重ねていくことの喜びを、私たちに伝えてくれる作品です。

展覧会の見どころ

宮本三郎記念
デッサン大賞展実行委員会
委員長 **二木 伸一郎**



4回目となる宮本三郎記念デッサン大賞展はこれまでで最多の応募作品数を記録し、しかも全国各地から作品が送られてきたことは、本展がいよいよ周知されてきた確かな証と言えるでしょう。

これまでもそうでしたが、審査では技術的に上手いということが選定の第一義ではなく、稚拙でも訴える力のある作品が選ばれています。大賞・宮本三郎記念賞・優秀賞の作品は甲乙付け難く、緊迫した協議が長く続きました。

結果、大らかで迫力溢れる大賞、日常の生活空間を緻密に描いた宮本三郎記念賞、そして優秀賞には木炭で描いた人物と細密な線描の風景と、いずれも対照的な作品が選ばれました。

バラエティに富む51作品、ぜひご覧いただきたいと思います。

宮本三郎記念賞



かわいい子犬 小林 恵(長野県)

佳作



うたってもいい 谷本 梢(石川県)

優秀賞



Students(熱放射) 大島 愛(広島県)



銀色の記憶No.18 藤原 秀之(千葉県)



編 八木 真恵(福岡県)



KUBA 湯浅 景子(愛知県)



平成美人画伝 その1 アール ツダ(神奈川県)

協賛特別賞

繚乱
小嶋(埼玉県)

荒井良二賞

いつかのどこかのだれかに
つながる6つの景色
渡辺 愛子(神奈川県)

鴻池朋子賞

母
豊田 昇子(東京都)

小澤基弘賞

泉
大塚 隆明(東京都)

皆川明賞

カノン
島崎 清史(宮崎県)

【小松展】

会期 9月23日(土・祝) ~
12月3日(日)

ところ 宮本三郎美術館

【東京巡回展】
会期 12月16日(土) ~
3月18日(日)

ところ 世田谷美術館分館
宮本三郎記念美術館